

OCU社会貢献事業について

～活動の経緯と継続性のある事業推進にむけて～

《今定期大会における事業内容》

- 寄贈先 社会福祉法人「中心会」(えびな南高齢者施設)
- 寄贈品 自走式車椅子 肘跳ね上げ式 足台スイングアウト 自走介助兼用 2台

OCUでは、社会的・公益的な取り組みが求められている労働組合としての役割を発揮するためにも、社会貢献事業に関する継続的な取り組みを推進してきました。

これまでの取り組みを振り返ると、第44回 定期大会(2009年8月)において、終戦直後に海外からの引き揚げ虚弱母子を受け入れるための「中心健康荘」の発足から70年以上の歴史を持ち、現在は小田急沿線で介護福祉施設や児童養護施設の運営などを行っている社会福祉法人「中心会」を寄贈先とし、OCU結成40周年記念事業の一環として計画的に積立を行ってきた周年記念事業基金より「車椅子の寄贈」を実施しました。その後においても、「社会貢献活動基金(※1)」から拠出する形で、引き続き「中心会」を寄贈先として、施設の運営に必要な備品を寄贈してきました。

そして、継続的な社会貢献事業を実施するなかで、第46回 定期大会(2011年8月)では、「リングプルから車椅子へ!」といった目標にむけ、2006年より取り組んできた「リングプル回収(※2)」が車椅子との交換量に達したことから、「中心会」を寄贈先とした「リングプル回収による車椅子の寄贈」を行いました。なお、「リングプル回収による車椅子の寄贈」については、活動の定着により、第50回 定期大会(2015年8月)においても、実施することができました。

また、組合員の社会貢献活動への「気づき」の機会づくりといった観点から、「まちづくり(※3)」に関する取り組みを進めてきたOCUとして、地域貢献活動に積極的かつ継続的に取り組んでいる「FC町田ゼルビアとのスポンサーシップ契約(※4)」や、観客動員といった観点も踏まえたホームゲーム応援ツアーの実施を通じ、同チームへの支援を行ってきました。

上述した活動をはじめとした社会貢献活動にともなう費用については、基本的に「社会貢献活動基金」から拠出しており、例年12月を強化期間として位置づけ、各組合で展開している「愛の募金活動」が同基金の資金となっています。具体的には、社会貢献活動基金運営規則に則り、「愛の募金活動」における各組合の寄付金集計額の20%を「社会貢献活動基金」に繰り入れており、UAゼンセンの「ボランタス基金(※5)」に対する会費としても、毎年、繰入額の40%(年間)を納入しています。

今後も上述した活動を中心に、積極的な社会貢献活動に取り組んでいきます。組合員の皆さんはもちろん、加盟組合各社からのご理解、ご協力に対し、改めて御礼を申し上げますとともに、継続性のある活動に繋げるためにも、引き続きご協力をお願い申し上げます。

今定期大会においても、これまでの経緯も勘案し、小田急沿線価値の向上の一助といった観点からも、社会福祉法人「中心会」を寄贈先とし、「えびな南高齢者施設」で必要とされる「自走用車椅子 肘跳ね上げ式・足台スイングアウト 自走介助兼用 2台」を寄贈させていただきます。なお、「中心会」に関する詳細については、別冊資料をご参照ください。

※1:社会貢献活動基金

OCUが健全な精神のもと、社会貢献活動を推進するために拠出を行う場合の特別基金として、原則「環境美化、環境保全活動」「ボランティア活動(高齢者・障がい者支援、自然災害救援、安全・防犯対策、子育て支援)」「まちづくり、地域活性化活動」「前述の支援のための拠出(寄付行為)」「上部団体が行う社会貢献活動に対する拠出」「その他特に必要と認められた活動および拠出活動」のいずれかに該当し、常任執行委員会が承認した場合に、拠出することができます。

※2:リングプル回収

2006年11月よりOCUの新たな社会貢献活動としてスタートさせた「リングプル回収」については、全国の学校や福祉団体などからアルミ缶のリングプルを集め、車椅子と交換する運動に取り組む団体として、2001年4月に北海道野幌商店街の店主らが結成した「リングプル再生ネットワーク(略名:プルネット)」を通じて、取り組んでいます。組合員の皆さんからお持ちいただいたリングプルを各組合書記局で回収する取り組みをはじめ、加盟組合各社の協力もいただきながら、店員食堂・休憩室などでの回収を継続的に行っています。

※3:まちづくり

地域が元気であれば流通サービス産業の健全な発展が望めないばかりか、ひいては私たちの雇用・労働条件の維持・向上もままならないといった認識のもと、地域の多様な主体の参加によって、それぞれの地域の実情にあった“まち(生活空間)”を創造するために、OCUが加盟していた旧日本サービス・流通労働組合連合(JSD)が2002年より取り組んでいる活動で、2012年に結成されたUAゼンセンにおいても、その活動は継承されています。

※4:FC町田ゼルビアとのスポンサーシップ契約

1989年の発足以来、「ホームタウン・町田を愛し、町田に愛されるクラブへ」を活動理念とし、同チームが町田市を中心とした地域貢献活動に積極的に取り組んでいるなかで、加盟組合各社の事業所が所在する町田市周辺の活性化にも寄与するといった観点からも、財政面での支援に加え、組合員の生活時間の充実にもむけた機会提供と同時に、地域貢献、社会貢献活動の「きっかけづくり」として、弛みのない支援が必要という認識のもと、2008年より契約しています。

※5:ボランタス基金

UAゼンセンにおける社会貢献活動である「ボランタス活動」を実施するための特別会計として管理している基金で、加盟組合が納入している会費が主な資金となっています(会費以外の資金としては、カンパがあります)。日本最大の産業別労働組合が推進する社会貢献活動ということもあり、国内外の多岐にわたる領域での活動となっているなかで、労働組合が有する目的の一つである相互扶助の精神にもとづいた、人道的観点からの活動を中心とした支援を行っています。そして、「組合員の理解と共感」「参加型の活動」「継続性」といった原則にもとづいた活動を展開しており、具体的な活動についても、OCU社会貢献活動基金運営規則における適用(拠出を行う場合の対象)と大部分で合致しています。また、活動の推進にあたっては、円滑な運営を図るために設置されているボランタス委員会における審議を経て、中央執行委員会で議決されており、厳格且つ民主的な対応が行われています。なお、UAゼンセンの結成に際して、社会貢献活動については、旧JSDおよび旧UIゼンセン同盟において、それぞれ取り組んできた「愛の募金」活動と「ボランタス活動」を通じて、人道支援、情報提供、啓発活動等を推進していくこととしています。一方で、活動資金の集め方については、両組織で大きく異なっている実態(旧UIゼンセン同盟は全加盟組合:全組合員が「ボランタス基金」への活動資金を拠出する仕組みでしたが、旧JSDは「愛の募金」への募金活動に全加盟組合が参画することを求めていたものの、「募金」という性格上、任意での参画となっている状況)があることから、それまでの両組織の方式を当面の間継続し、将来の方向性や具体的な運用を検討することとしています。

以上